

議 事 録

1 会議名	第2回美濃加茂市定住自立圏共生ビジョン懇談会
2 開催日時	平成21年7月27日（月）19時から21時
3 出席者名	委員：山田實紘委員、鈴木登委員、則竹邦光委員、市橋達委員、青柳芳男委員、井上正秋委員、久世康夫委員、大野寧彦委員、久門圭子委員、高井正文委員、小笠原伸委員、佐野綾日委員、小倉郁乃委員、渡辺厚委員 アドバイザー：細川昌彦 以上敬称略 市側：渡辺市長、宮口誠経営企画部長 行政経営課（事務局）総員3名
4 議題	定住自立圏共生ビジョンに盛り込むべき具体的な取組項目など
5 審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none">・ 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想共生ビジョン推進会議の位置付け、検討テーマ等について説明を行った。・ 定住自立圏共生ビジョンに盛り込むことが望ましいと考えられる具体的な取組項目について、各委員から意見を伺った。
6 審議の内容	

	<p>別添次第及び資料に基づき議事を進行した。以下に要点を記す。</p> <p>開 会 (省略)</p> <p>1 市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 快適性生産総量 (Gross Comfortable Product) を高めていくことが、定住自立に向けた1つの方法ではないかと考えている。 ・ 具体的には、最低限の生活保障、安心の保障、より快適な生活の実現などを表す指標を数値化し、これを高めていくことが大切ではないか。 ・ 美濃加茂市を充実した楽しい空間とし、都市・都会から田舎へという逆流を是非ともつくり出していきたい。 <p>2 共生ビジョン懇談会新委員紹介 (省略)</p> <p>3 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想共生ビジョン推進会議の設置について (事務局が資料1～7に基づき説明)</p> <p>4 具体的な取組項目に対する意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議では、地域においしいものがあることが、住みよいまちづくりの1つのきっかけになるのではないかと、また、地域に田んぼや畑があり、緑が豊かなことも住みやすさをもたらしているという話をした。 ・ 農協の立場から、生産者と消費者の交流の場づくりにしっかりと取り組むことにより、美濃加茂市は良いところだと実感してもらうことが必要と考えている。 ・ 例えば、小学校に通う子と親に農業を体験してもらい、収穫に喜びを感じてもらおう。または、PTAの母親たちに名古屋港で輸入された食材を見学してもらい、地元で採れた安全・安心で新鮮な食材とどちらがよいのかを学ぶなど、消費者と生産者が常に話し合える場をつくっていくことも、住みやすいまちづくりの1つの方法ではないかと思う。 ・ 食と農を通じたコミュニケーションを通じ、他の分野とも結びつき、地域の中で話し合える場をつくることも大事ではないか。 <p>井上副座長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院、医院が多いという地域特性を踏まえ、健康について、美濃加茂市が各市町村と協定を締結し、しっかりと責任を果たしていけるような政策を打出していけばよいのではないかと。 <p>青柳委員</p>
--	--

久世委員	<ul style="list-style-type: none"> 川や山があるという自然環境と交通の便も含めた非常な便利さ、両方のバランスが取れていることが、他の地域から定住人口を確保する上で大切であり、それが現在の住みやすさの一因だと思う。あわせて、地元の企業や雇用環境が非常に元気にならなければならない。
佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> 山をきちんと整備し、サルやイノシシ等の野生動物と共生できる環境を整えたり、美濃加茂市と周辺町村との共生を考えることも重要である。
山田座長	<ul style="list-style-type: none"> 里山をきちんと保全するなど、自然との共生をもっと見直さなければいけない。
小笠原委員	<ul style="list-style-type: none"> 定住自立圏は、美濃加茂の立場だけで考えては決していけない。現状のままを放置した場合、15～20年後に周辺町村の多くが崩壊状態になってしまう。美濃加茂市を中心とした地域が15年後、20年後に戦える地域になっているかどうか問われている。 是非とも地域の運動として定住自立圏に取り組んでもらいたい。そうしないと、総務省の狙いとは随分ずれてくると感じている。 具体的な取組項目（案）に◎や○を付け、前者は1つのWG（ワーキンググループ）が責任を持って議論するが、○は複数のWGで議論してもよいのではないか。例えば、安心・安全向上WG以外に人口・交流拡大WGでも病診連携の議論をしてもよいはずである。 WGに参加する委員が本気でそれぞれの取組を15年後までやっていくというレベルで考えないと、ちょっともったいない気がしている。
山田座長	<ul style="list-style-type: none"> 確かにその通りだと思う。自分のまちをよくしよう、自分たちの住みよいまちをさらによくしようとすることが、地域の人たちからもっとも上がってこなければいけない。 我々は定住して自立していきたいがために、ここにお金を使おうというところを真剣に議論すべきである。
高井委員	<ul style="list-style-type: none"> どこかに焦点を絞ってビジョンをつくることになるのか、ビジョンは何を一番大事にしてつくればよいのかが少し分かりにくい。
山田座長	<ul style="list-style-type: none"> わいわい、がやがやで、結局、何をやっているか、分からなくなってしまう、焦点がぼけたままで、最後にぼんとビジョンを出すことにならないようにしたい。

鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂は有効求人倍率が0.22、これは県下でワースト1という話を聞いた。これは突き詰めると、これまで大規模な進出企業に雇用を頼っていたことに問題があったのだと思う。 ・ 二重行政の弊害をなくすことによって、相当効率が上がるのではないかと、既存の行政の壁を取り除かなければいけない。 ・ 基本的に医療、福祉や環境を整えることは当然であり、これらをベースに置きながら、地元の経済力・産業力を高めていくことが非常に重要ではないか。 ・ 美濃加茂は安心して住めるまちであることを売出せるよう、犯罪のないまちづくり、安心して住めるまちづくりにも取り組んでもらいたい。 ・ これらを実現するためには、市がヘッドクォーターとしてシンクタンクの役割を果たすことが一番いい方向だと思う。
山田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型スーパー等が農村に進出する場合、人口が多くなったということできられる。しかし、あと何年ぐらい美濃加茂市は持つのか。反対に、美濃加茂市は伸びる、もっと、そこには投資するといった観点から、何かコメントをいただきたい。
市橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ あと15%位、人口が減り、売上げに影響してくると、店は持ちこたえられず、800名程いる従業員や関連する雇用がなくなるということになりかねない。 ・ 新鮮できれいな水からできた安心・安全な農産物は、1つのキーワードとして必ず成立すると思う。また、拘るところは徹底的に地元には拘らないと、産業振興にはつながらないと思う。 ・ 例えば、スイーツであれば全てを地元で賄うことを徹底してやる、健康と美容に関しては、徹底的に商品開発に結びつける等々、美濃加茂に拘り、徹底的に安心・安全な商品をつくって売出せば、必ず消費者には認識してもらえる。 ・ ブランドづくりに関しては、多くの可能性を秘めており、多くの雇用を生出すチャンスでもあると認識している。
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月17日に市長から知事に定住自立圏構想の報告をしていただいた。県として、美濃加茂市や関係町村の意見は、県の色々なプログラムに反映させていきたいと思っている。 ・ 市民の立場としての意見になるが、経済的なことは非常に重要だと思う。また、教育とか、地域住民の交流促進、多文化共生の推進について、何かやってもらえないかと考えている。 ・ また、近隣にとどまらず、広域的な視点から他市町村とどのような連携ができるかを考えていくことも必要である。

小倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、この地域を支えていくのは誰かを考えた時、若い人たちにもっともっと焦点を当てなければいけないのではと感じている。大学進学のために市外へ出た若い人たちが、再び地域に戻って力を発揮してもらえよう、彼らの意見も集めることができたらよいのではないか。
久門委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 素通りせず、何とか市内に長く滞在してもらえ、市内を回ってもらえるような観光のあり方を考えている。 ・ 日本昭和村では、県産品以外は置かないというスタイルを採っている。しかし、果物等の生もの以外、美濃加茂市の特産品や名産品で商品として並べられるものは少ない。 ・ 観光客が限られた時間の中で、特産品や名産品を買って帰るという需要は多いが、長距離を運ぶのに耐えられるような加工品が少ないことが大きな課題となっている。
大野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂市には、農業や自然、色々な企業の立地、観光がある。これらの資源を上手く融合したまちづくりには、十分な可能性があると思う。 ・ 自立した経済圏を目指すには、次にこのまちを支える役割を担う若い人たちにいかに定住してもらうかが重要であり、そのためには雇用の場を整える必要がある。 ・ ある程度ビジョンができた段階で、若い人たちの意見を求めるということも絶対に必要ではないか。
則竹委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者を集めようと思っても、彼らの期待に応える仕事を与えられない。これを逆手にとって、高齢者が中心のまちでもよいのではないか。自分は、お年寄りを活用する仕事を重点的に考えていこうと思っている。 ・ 現状でも美濃加茂市にはよい商品が沢山あるが、規模が小さい、従事者の高齢化等の理由で生産を止めてしまう方が多い。止めないように何とかバックアップしてあげられないか。 ・ 隠れた特産品や名産品は沢山あるが、後継者不足等により青息吐息というのが現状である。一村一品運動を通じ、これらを発掘し、力づけることに取組んではどうか。 ・ 祭りは、地域の文化のレベルを表している。祭りを発掘し、それぞれの地区の祭りを復活させることにことにも取組んではどうか。 ・ 現在の状態でも、創意工夫と努力で絶対によりよいまちになると思う。皆で協力し、あきらめずに頑張れば、きっとよい結果が生まれる。

山田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県内で病診連携が一番上手くいっているのは加茂医師会である。病診連携を通じ、医療費の無駄を少なくするため、外来のちょっとしたものは一般の診療所で、重症の方たちは病院でもっと深く検査し、入院するという振分け方をする。それによって、非常に無駄が少なくなるシステムづくりを推進している。 ・ 全国に350数ヶ所あるがん特定病院のうち、民間病院は5～6ヶ所しかないが、その中に木沢記念病院が含まれている。今後、最先端の設備を多く導入し、より高度な医療を提供できるように計画している。 ・ 米国には、医療・保健・福祉に係る雇用の場を創出することによって、まちおこしを行っている事例がある。加茂医師会でも、このよう事例を踏まえつつ、何か考えていければと思う。 ・ ビジョンに盛り込むべき内容は、ある程度絞っていかなくてはならないと考えている。
細川アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の自治体が一緒になり、広域の地域を皆で一緒に経営するというのが、定住自立圏の原点だと思う。その時の地域経営とはどういう選択目標か、人を呼込む、企業を呼込むことに力点を置き、総務省が立案したのが定住圏構想ではないかと思う。 ・ どのような目標に基づき、どういう機能をどこに集中させ、複数の自治体間でどのようにネットワーク化するかに議論を絞らないと、話が拡散してしまう。こんなものがあつた方がいい、あんなものもあつた方がいいでは、切りがないと思う。 ・ 美濃加茂市が周辺自治体と一緒に、機能や役割を分担し、ネットワーク化することによって、皆でこの地域を経営していく。その際、メニューとして何をすべきかに焦点を絞るべきと理解している。 ・ 定住自立圏構想において、主眼を置くべきは通勤・通学圏、医療圏及び商圏を含めた生活圏という切り口だと思う。もう一つ経済圏という言葉がある。総務省の資料では、「生活機能の強化」という項目中に産業振興が含まれているが、経済圏と生活圏は異なる。 ・ 経済圏は生活圏よりも大きい。したがって、この地域だけをじっと見て産業振興を議論しても、決して答えは出てこない。産業振興は、名古屋経済圏の中での美濃加茂市の位置付けを考えていなければならない。このことを十分に意識して議論を進める必要がある。 ・ 地産地消についても、この地域のことだけではなく、名古屋経済圏を視野に入れた形で考えていくべきである。 ・ 単に美濃加茂市及び周辺自治体だけではなく、圏域外の大都市とのネットワーク化も視野に入れて議論することも必要ではないか。この点を少し整理した方がいいと思う。

細川アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例えば、防災・防犯は美濃加茂市と周辺自治体だけ、地産地消であれば大都市圏との連携も視野に入れてビジョンを描くなど、項目によって議論の対象とすべき視野を変えてもよいかもしれない。 ・ 大学というプレーヤーをどうやって引き込むかも、まちの活力、地域の活力を高める上でとても大事なことだと思う。その際、岐阜県内の大学でなければ駄目と思う必要は全くない。県境の発想を取払うなど、物事をもっとフレキシブルに見ていくことが大切だと思う。 ・ 担い手の一員である自治体職員の意識改革も非常に重要である。職員一人ひとりの意識が変わらないと、いくら計画が立派でも、絵にかいたもちになると思う。 ・ このため、例えば、複数の自治体職員からなる検討チームを立上げ、合宿をしてプロジェクトを立案させるなど、行政区画の意識を取払い、広域で物事を見ていく癖がつくような仕掛けが必要である。 ・ また、企業誘致によって増えた税収を周りの自治体にも配分するような仕掛けがあってもよいと思う。大切なのは、皆が一緒になってやろうという意識をしっかりと持つことである。 <p>5 その他 (事務局から今後のスケジュールを説明、市長からお礼の挨拶)</p> <p>閉会</p>
7 会議資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 美濃加茂市定住自立圏構想共生ビジョン懇談会委員名簿 2 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想共生ビジョン推進会議設置要綱 3 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想共生ビジョン推進会議委員名簿 4 定住自立圏構想の策定体制 5 定住自立圏構想検討スケジュール 6 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏連携分野及び取組項目 (案) 7 アクションプラン検討ワーキンググループにおける検討の視点